

グリーンスローモビリティ導入の手引き

令和7年3月

相模原市

目次

1. はじめに.....	1
2. グリーンスローモビリティの運行.....	2
2-1 グリーンスローモビリティとは.....	2
2-2 運営方法.....	9
3. 導入支援の条件.....	12
3-1 条件設定の考え方.....	12
3-2 具体的な条件.....	12
4. 導入に向けた検討.....	14
4-1 地域の現状とニーズの把握.....	15
4-2 運行内容の検討.....	19
4-3 運営体制の構築.....	26
4-4 必要な設備の確保.....	29
4-5 運営費の確保.....	30
4-6 実施計画の策定.....	31
4-7 広報の実施.....	32
5. 実証運行.....	36
5-1 実証運行のフロー.....	36
5-2 効果検証.....	37
5-3 運行内容の見直し.....	38
5-4 本格導入に向けて.....	39
6. 本格導入後.....	40
6-1 本格運行のフロー.....	40
6-2 本格運行後の市の支援.....	41

参考資料

- 参考 01 新磯住民アンケート
- 参考 02 若葉台地区実証計画書（2期）
- 参考 03 実証運行実施マニュアル（若葉台）
- 参考 04 若葉台利用者スタッフアンケート

1. はじめに

本市では、「交通不便地域※¹」における「移動制約者※²」の移動手段の確保を目的として、「コミュニティバス」や「乗合タクシー」等のコミュニティ交通を導入することで、地域の実情に応じた持続可能な移動手段の確保に取り組んでいます。（それぞれの制度の概要は「コミュニティバスの導入の手引」「乗合タクシーの導入の手引」を参考にしてください。）

しかし、コミュニティ交通の運行には一定程度の移動需要が必要であり、地域の細やかな移動需要に対応することは困難です。また、既存の公共交通やコミュニティ交通でカバーできない移動需要に対しては、「地域の輸送力を総動員する取組」として、地域住民が主体となって移動手段を確保することも重要となります。

本市では、全国各地の高齢化や交通サービスの縮小が進む地域において活用が進んでいる「グリーンスローモビリティ」に注目し、導入に向けた取組を進めて参りました。

令和4年度に環境省によって若葉台地区で地域住民へのアンケート調査やグリーンスローモビリティの体験会が開催されたことにより機運が高まったことから、令和5年度の途中から、若葉台地区、新磯地区で住民主体によるサービス提供を前提とした実証運行を開始し、令和6年度には、同地区において実証運行を通年で行いました。

この結果、グリーンスローモビリティが地域主体の取組として住民の移動を支えることができることを確認しましたので、令和7年度から、本取組への支援を事業化し、他地域での導入について促進することとしました。

今後、市内各地においてスムーズな導入が図られるよう、導入に向けた手順やノウハウを手引きとして取りまとめました。

グリーンスローモビリティを、皆さんの地域活動や移動を支えるための一つのツールとして有効活用していただければ幸いです。

※1 交通不便地域

「相模原都市計画区域（旧相模原市・旧城山町）の市街化区域において住居系の土地利用を図る区域」及び「相模湖津久井都市計画区域、都市計画区域外の区域（旧津久井・相模湖・藤野町）」において、鉄道駅等から1,000m以上離れ、かつバス停留所から300m以上離れている地域を指します。

※2 移動制約者

高齢者や自動車を利用できない方など、公共交通以外に移動手段がない方のこと。

2. グリーンスローモビリティの運行

2-1 グリーンスローモビリティとは

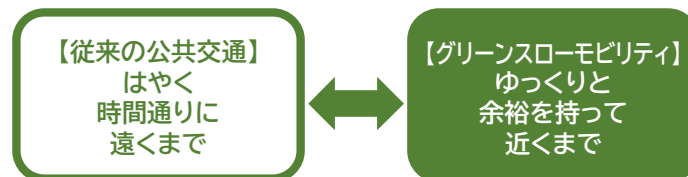
(1) 定義

『グリーンスローモビリティ』とは、

- ①「時速 20 km未満」で公道を走ることができる
- ②「電動車を活用」した
- ③「小さな移動サービス」

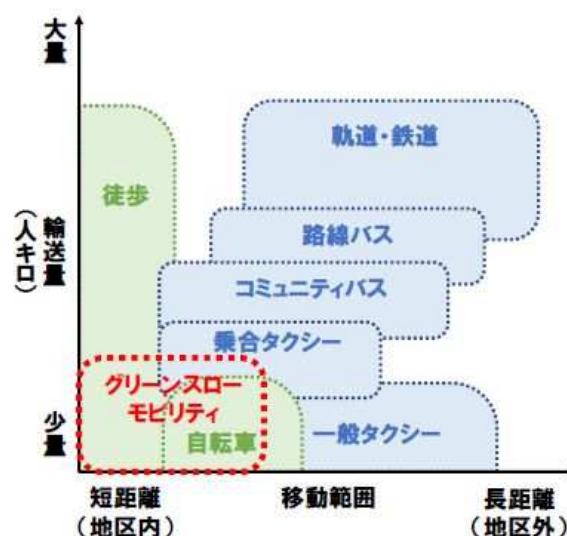
のことで、その車両も含めた総称です。『グリーンスローモビリティ』を短縮して『グリスロ』（通称）と呼ばれています（以下「グリスロ」という）。また、「小さな移動サービス」とは、自宅からバス停までというような「近距離」のきめ細やかな移動サービスを意味しています。

従来からある路線バスや鉄道等の公共交通は「はやく・時間通りに・遠くまで」の移動手段ですが、グリスロは「ゆっくりと・余裕をもって・近くまで」の移動手段である点が大きな特徴です。



■グリスロが担う移動

グリスロは、乗合タクシーやコミュニティバスの運行による移動支援が困難な住宅地や集客施設等と、最寄りの生活拠点やバス停・鉄道駅を連絡する「少量・短距離輸送」に適した移動サービスです。



※出典：国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」

▲グリスロのサービス領域

(2) グリスロの特徴・導入に適した地域

特徴① <グリーン (Green) : 電動車を活用した環境に優しいエコな移動サービス>

- 沿道環境への影響が小さく、二酸化炭素排出を低減できるうえ、再生可能エネルギーによる電力を活用すれば更なる低減効果が見込めるエコな移動サービスです。
- エンジンではなくモーターで駆動しますので、**ガソリン車等と比較して走行音が静かな点もポイントです。**
- 一方で、**ガソリン車と比較して航続距離※が限定されます**ので、ルートやダイヤの設定の際には留意が必要です。 ※1回の充電で走行可能な距離

【導入に適した地域】

- 閑静な住宅地
- 短距離の移動に需要がある地域



▲閑静な住宅街を走行する様子（左：若葉台地区 右：新磯地区）

特徴② <スロー (Slow) : 時速 20 km未満の低速な移動サービス>

- 最高時速が 20 km未満に制限されており、交通量が多くない道路や、低速での走行に向けた移動サービスです。
- 速度制限により、**重大事故の発生が抑えられる**こと、さらに**運転操作が比較的シンプルで高齢者でも安心して運転**することができることから、**高齢者の活躍の場や社会参加の機会創出**も期待できます。
- **長距離の移動や交通量の多い幹線道路での活用には不向き**です。

【導入に適した地域】

- 交通量が多くない地域
- 生活道路などで自動車の速度が制限される地域



▲交通量が多くない地域を走行する様子（若葉台地区）

特徴③ <モビリティ(Mobility)：同じ定員の車両と比べて小型で開放感があり乗降しやすい>

- 同じ乗車定員の車に比べてサイズが小さな種類のものもあり、柔軟で効率的な輸送が実現しやすくなります。
- 車両によっては、窓ガラスを設置しない、窓ガラス全面が開くなど開放感が感じられる、風や匂いを感じたり、音や声を聞いたり、自然との一体感が心地よく、乗っていてとても楽しい車両もあります。
- 前列との仕切りがなかったり、利用者同士が対面で乗車できたりするなど、利用者同士のおしゃべりが弾む構造となっている車両もあります。

【導入に適した地域】

- 他の車両が通れないような狭い道路がある地域
- 地域のイベントや集まりなどが多い地域



▲狭い道路を走行する様子(新磯地区)



▲ドアがあるタイプの車両（新磯地区）

注意点：窓ガラスやドア、シートベルトが無くても大丈夫？

車両の保安基準は道路運送車両法によって定められています。最高時速 20km 未満の車両は、同法の規制が一部緩和されます。なお、シートベルト等についてはあくまでも免除されるだけであり、地域の必要性に応じて装着することを妨げるものではありません。

【一部規制緩和の例】

- 窓ガラスやドアがなくても公道を走行できる
- シートベルトやチャイルドシートの装着免除



(3) グリスロとして活用されている車両

車両は、軽自動車、小型自動車といった種別に分かれます。車両を運行するためには、一般的な乗用車と同様に自動車税等の納付や定期的な車検・法定点検が必要となります。

一回の充電で、30km～100km 程度走ることができます。また、車両によって異なりますが、一回の充電には約5時間～9時間必要です。

▼グリスロとして活用されている車両例

軽自動車	小型自動車
	
4人乗り	5人乗り
	
4人乗り	6人乗り
	
4人乗り	7人乗り

※出典：国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」

				
自動車の種別		軽自動車		小型自動車
車両寸法 (cm)	全長	311～315		396
	全幅	122～134		133
	全高	175～184		184
	ステップ高さ	25～30		26
性能等	登坂(度)	20		20
	乗車定員(人)	4		7
必要電源		AC100VまたはAC200V		AC200V

※出典：国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」

■「若葉台地区・新磯地区グリーンスローモビリティ実証運行」における使用車両（令和 5 年度）

AR-07(ヤマハ発動機)



▲実証運行で使用した車両



▲雨除けを下ろして走行する様子（松戸市）

※出典：国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」

○諸元

全長	3,955mm
全幅	1,354mm
全高	1,837mm
最低地上高	115mm

重量	590kg
乗車定員	7 名
走行速度	0～19km

<メリット>

- ・ドアが無く開放的で、車内から歩行者に声をかける等コミュニケーションをとりやすいなど地域コミュニティの活性化にも向いています。
- ・低床フロアのため、足腰が不自由な方でも乗降がスムーズです。

<デメリット>

- ・左ハンドルで、パワーステアリング機能が備わっていないため、一般の乗用車とは操作感が異なります。
- ・ドアがないため、次の点に留意する必要があります。
 1. 荷物等が車外へ飛び出す不安がある。
 2. 荷物は後方部の狭い荷物スペースに置く必要がある。
 3. 気候の影響を受けやすい（寒暖、風雨など）。
- ・充電には 200v 電圧が必要のため、一般的な家庭用コンセントの場合、改造工事や変圧器が必要となります。

■「若葉台地区・新磯地区グリーンスローモビリティ実証運行」における使用車両（令和 6 年度）

NAO シリーズ(TAJIMA)



▲タジマの車両

※TAJIMA 社カタログより

○諸元（NAO-6J）※一部改良含む

全長	4,050mm
全幅	1,500mm
全高	2,230mm
最低地上高	130mm

重量	1,170kg
乗車定員	6～8 名
走行速度	0～19km

<メリット>

- ・右ハンドルで、パワーステアリング機能が備わっているため、乗用車と同じ感覚で運転できます。
- ・ドアがあるため、次のメリットがあります。
 1. 荷物等が車外へ飛び出す不安がない。
 2. 荷物を足元に置くことができ、荷物の置き場に困らない。
 3. ドアがない車両と比較して、寒さや風雨の影響を受けにくい。

<デメリット>

- ・ドアがあるため、開放感がやや感じにくく、車内から歩行者に声をかけるなどのコミュニケーションがとりにくいです。
- ・エアコンがあるものの、車内が高温になりやすく、夏場には暑さ対策が必要です。

(4) 車両の試乗

グリスロの導入を検討する際に、活用できるかイメージするために試乗することも可能です。試乗をすることで、車両の特徴を肌で感じることができます。

試乗を希望される場合は、「相模原市 都市建設局 まちづくり推進部 交通政策課」までお問い合わせください。

試乗のメリット

○利用者視点の理解

実際に試乗することで、「最高速度 20km 未満」という特徴を直に体験することができます。仕様書や製品紹介だけでは得られない生の情報を得ることが可能です。

○関係者の機運醸成

体験を共有することで、関係者のグリスロへの関心や受容度が高まり、運行に向けた機運の醸成が期待されます。

○先行地域との意見交換

試乗は先行地域で実際に運行している車両で行うことを想定しているため、実際に運行している地域での方針や工夫、これまでの改善点など、運行計画を立てる際に役立つ情報を得ることができます。

■相模原市内では、次の地域で運行しています。
(令和6年度現在)



背景の出典：国土地理院ウェブサイト
「<https://maps.gsi.go.jp/#13/35.535020/139.381485/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c0glj0h0k010u010z0r0s0m0f1>」を加工して作成

若葉台地区（緑区）



新磯地区（南区）



2-2 運営方法

(1) グリーンスローモビリティ運行支援事業

市では、地域の特性に合った小さな移動需要に対応できる新たな移動手段として、総合都市交通計画において、「小さな移動需要に対する地域主体の移動手段確保策の導入支援」を位置づけました。

この位置づけを基に、買い物など身近な移動に困難を抱える地域の課題解決のひとつとして、

『地域主体によるグリーンスローモビリティの運行』

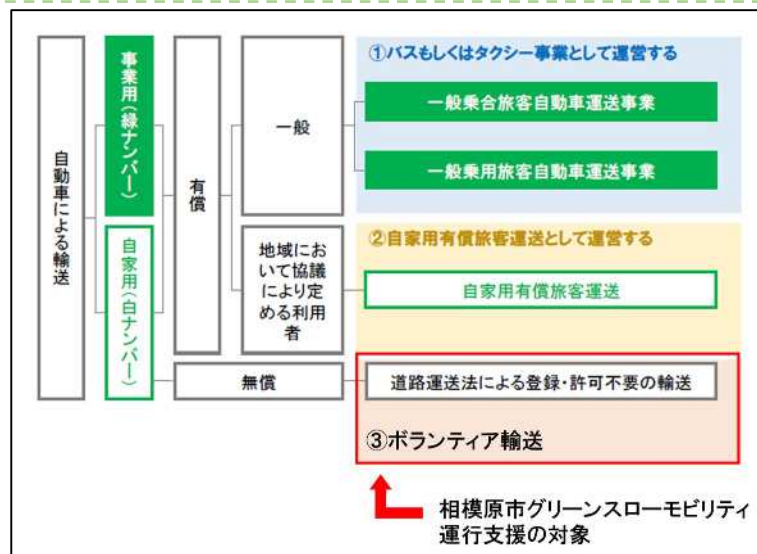
を支援します。

『地域主体による』とは・・・

- ・ 地域のボランティアドライバーによる輸送（許可・登録を要しない輸送）
- ・ 利用者の負担なし（ただし、運営に要する電気代等の実費負担を求めることは可能）
- ・ 地域主体で利用促進に係る取組を検討

■ 「許可・登録を要しない輸送（ボランティア輸送）」について ■

- ・ 輸送サービスは乗車賃をとる有償と乗車賃をとらない無償に分けられます。
- ・ 原則、無償の場合は道路運送法上の「許可・登録を要しない輸送」での運用が可能です。
- ・ 輸送方法としては、例えば自治会等が利用者へ無償で輸送サービスを提供することなどを想定しております。
- ・ 本市が支援するグリスロの運行形態は、柔軟な移動手段の検討が可能となるよう「許可・登録を要しない輸送」を前提とします。



※出典：国土交通省「グリーンスローモビリティの導入と活用のための手引き」を加工し作成

▲ 相模原市グリーンスローモビリティ運行支援の対象（法令上の位置づけ）

『市が主に支援をすること』とは・・・

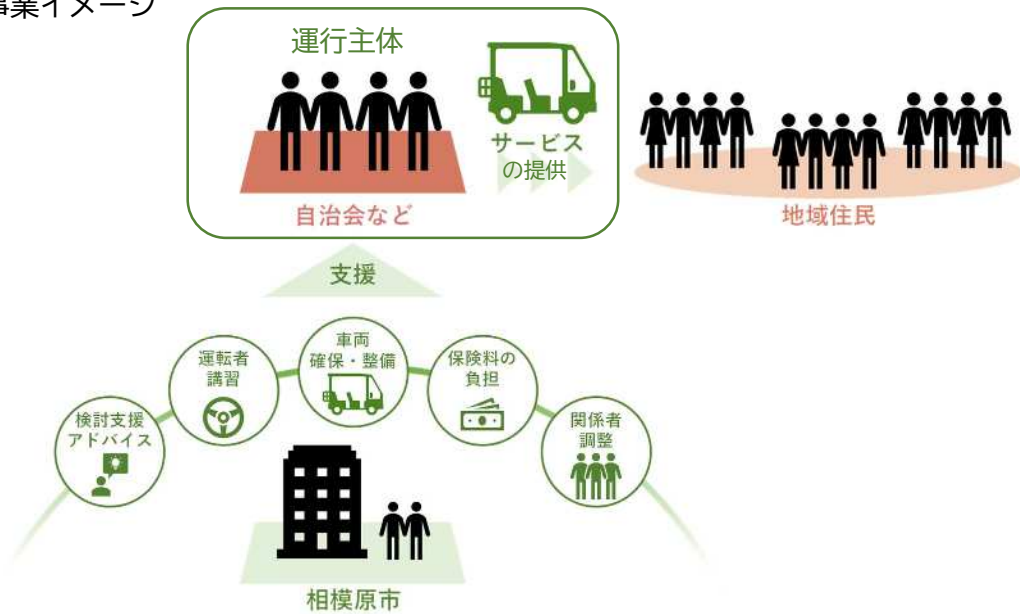
交通政策課

- ・ 導入の検討支援・アドバイス
- ・ 車両貸与（点検・整備費含む）
- ・ 保険契約
- ・ 運転講習
- ・ 国、警察、事業者等との調整
- ・ 運行の検討支援

まちづくりセンター

- ・ 広報・利用促進支援
- ・ 関係団体との連絡調整

◆事業イメージ



(2) ボランティア輸送について

ボランティア輸送での運行に当たっては、次のような点に注意が必要です。

①運送の対価（運賃など）をもらう運行はできません

ボランティア輸送は無償での運行であり、お金をもらう有償での運行はできません。有償での人の輸送は道路運送法上の許可・登録が必要で、それがないまま運行することは、いわゆる「白タク」「白バス」行為と言われ、法律違反で処罰の対象となります。

なお、ボランティア輸送で厚意に対する任意の謝礼で、金銭の支払いが認められる場合もあります。許可等が必要でないかは、最終的には個別・総合的に判断されますが、国土交通省が例示していますので確認をしてください。

■道路運送法の許可又は登録を要しない運送に関するガイドラインについて（通達）

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001338101.pdf>

■道路運送法の許可又は登録を要しない運送に関するガイドラインについて（イラスト説明版）

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001322024.pdf>

※運行経費を賄うため、市ではサポート事業を行っています。地域主体での運行には、備品の用意などが必要です。その経費を賄うための手段として、「相模原市地域おでかけサポート推進事業」（4章に詳述）の活用を検討ください。

②あくまでボランティアであることを前提に考えましょう

ボランティアは、協力したい人が生活の中で無理なく、協力できる範囲で行うものです。

日常で目にする路線バスのように、日中の全ての時間を休みなく運行することや、タクシーのように予約が入ればすぐ送迎を行うことは不可能です。

移動に困っている方を助けるために必要な輸送を、地域の皆さんで協力しながら、可能な範囲で行うことを前提としてください。また、ボランティア輸送に参加して、やりがいや楽しみを感じられるような取組・組織づくりを目指してください。

3. 導入支援の条件

3-1 条件設定の考え方

地域がグリスロを導入する際に市が行う支援には、2つの条件を設けています。1つ目は、グリスロに適した地理的特性を有していることです。2つ目は、地域主体で検討していくための体制が十分に確保されていることです。

この2つの条件を満たしたうえで、「グリーンスローモビリティ導入検討申請書」を市に提出してください。

3-2 具体的な条件

(1) 地理的特性を有する条件

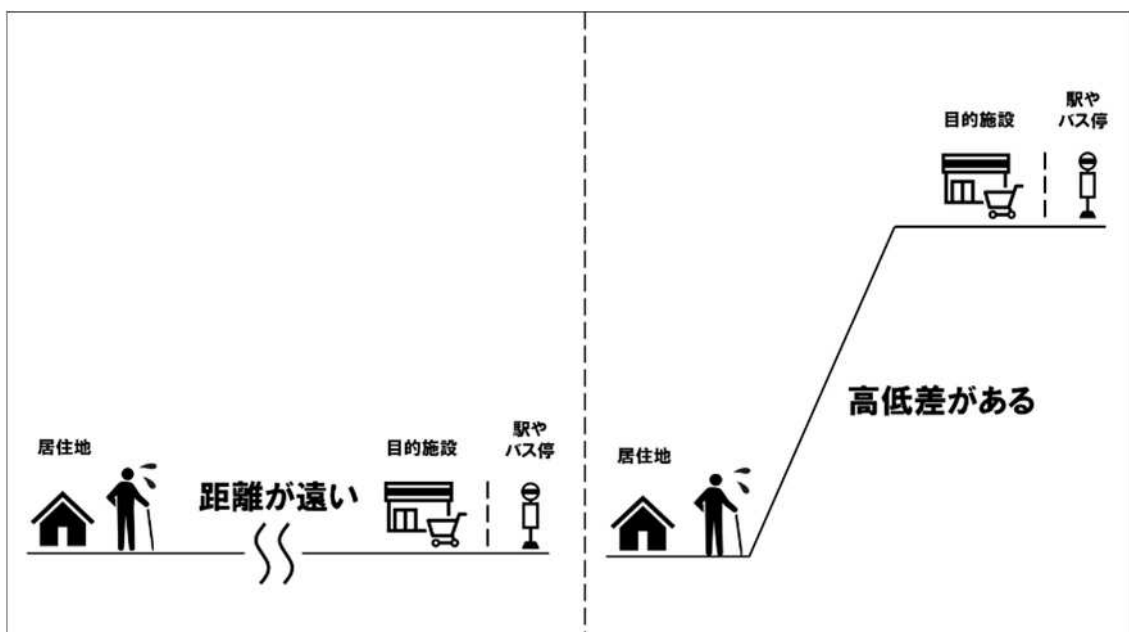
次の3点を満たす場合、地理的特性を有していると判断します。

1. 主な目的地までの運行ルートが、片道1～3km程度と想定される地域
2. 主な目的地まで、幹線道路※1を通行する必要がある地域

※1 多車線道路、交通量が多い道路、通行する車両の速度が速い道路のことです。（例えば、一般国道や主要地方道が該当します。）運行に向けては、警察の意見も参考にします。

3. 徒歩および公共交通機関等を使用して、買い物施設等をはじめとした目的地への移動が難しい地域

なお、目的地への移動が難しい地域とは、目的地や目的地に向かうための駅やバス停が、居住地から距離が遠いまたは高低差がある地域とします。



▲目的地への移動が難しい地域

(2) 検討体制確保の条件

グリス口の運行は、地域主体で検討を進める必要があります。その際、体制として次の内容を満たす体制を確保してください。

1. 定期的な会議に参加できる構成員（コアメンバー）を3人以上確保し、代表者を1名選任する。

この代表者は、活動の連絡窓口として選任されるものであり、「自治会長等、組織の長が行わなければならない」というわけではありません。

検討体制の例は、次のとおりです。

▼検討体制の例

	名前	住所	連絡先	所属する地域組織団体
コアメンバー1（代表者）				
コアメンバー2				
コアメンバー3				
その他構成員				

2. 実施について主な運行地域の自治会からの合意を得ている。
3. 地域組織団体^{※2}から構成員が参加している^{※3}。なお、複数の地域組織団体で構成されることが望ましい。

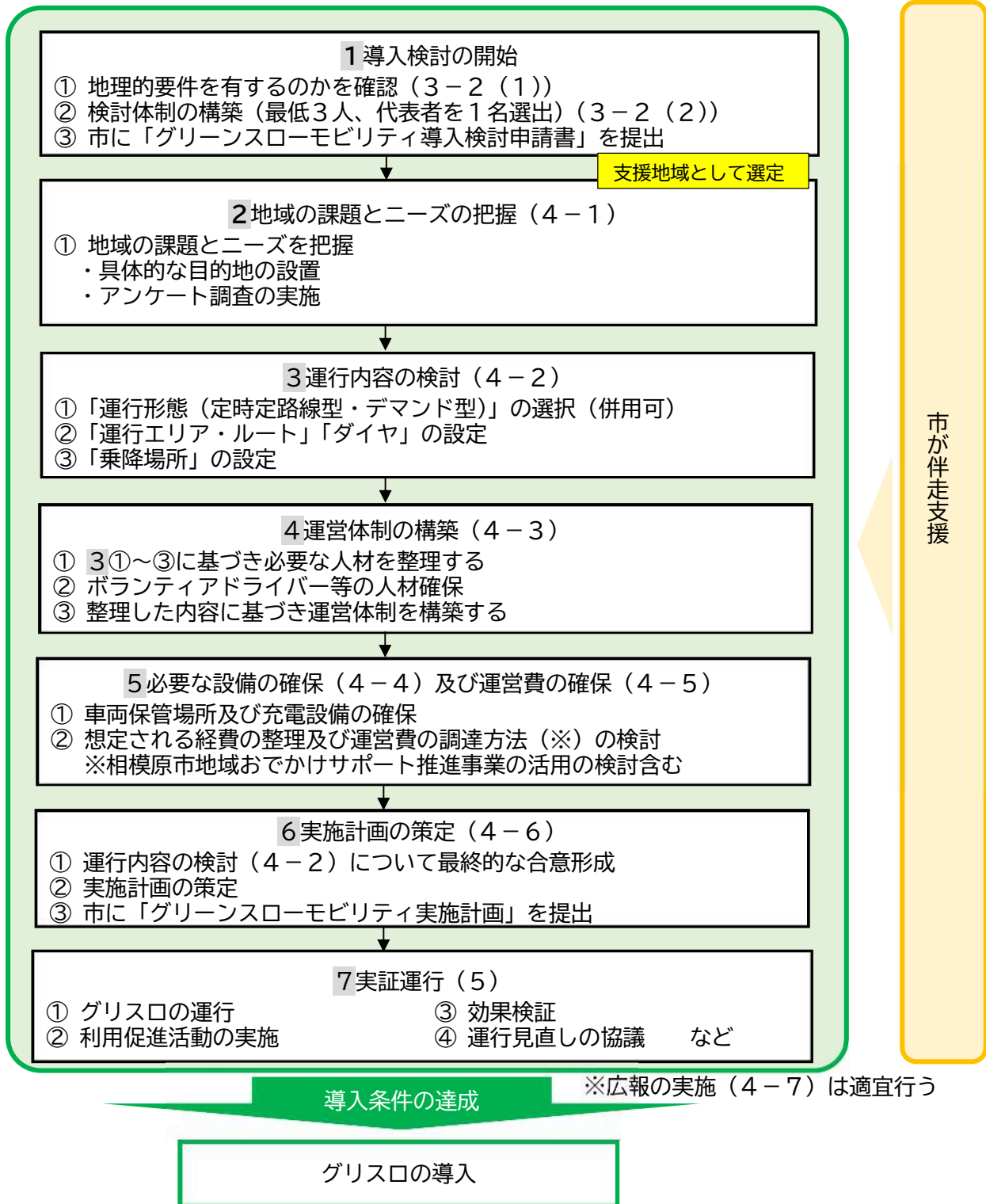
※2 自治会、社会福祉協議会、民生委員など。

※3 運行に協力できる方であれば、地域組織団体に加入していなくても構成員となることができる。

4. 導入に向けた検討

グリスロの導入を検討する際に、考えておくべき項目とその流れについて説明します。

導入に向けては、次のフローで検討します。市は、検討の全般において適宜助言するなど、伴走支援をします。具体的な支援内容は各項で示します。



▲グリスロの導入に向けた流れ

4-1 地域の現状とニーズの把握

(1) 地域の「現状」と「ニーズ」の把握

①地域関係者等との意見交換を実施する

短距離・少人数を輸送することに適しているグリス口を活用して、どのような地域課題の解決を図っていくか、地域住民のほか、交通事業者や、高齢者・福祉関係者なども含めて地域の交通課題に関して話をする機会を持ち検討してください。あらかじめ、話し合いをすることで、導入に向けた検討・調整に向けた信頼関係を醸成することにも繋がります。

また、4-2以降についても、地域関係者等との意見交換・調整は適宜行ってください。

交通事業者のほか、道路管理者や地方運輸局などの行政機関は、必要に応じて、市が意見交換会の調整を支援します。

▼関係者との調整の目的と内容

目的	相談内容等	相談相手
安全なルートを行 行するため	・他の交通への影響や交通事故のリスクを最小限に抑えるため、運行ルートや乗降場所について相談しましょう。	・警察
	・乗降場所の設置など、道路を利用する場合は道路管理者に相談しましょう。	・道路管理者
他の公共交通との トラブルを避ける ため	・既存のバスやタクシーに影響を及ぼす恐れがあるため、運行内容等について相談しましょう。アドバイスを期待できる場合もあります。	・バス事業者 ・タクシー事業者 等
関係法制度に則っ た運行とするため	・道路運送法等の関係法制度に則った運行とするため、運行内容等について相談しましょう。	・地方運輸局 ・運輸支局
地域関係者の理解 を深め、協力を得 るため	・苦情やトラブルを避け、地域関係者が連携してグリス口の導入を進め、地域に愛される移動サービスとして定着させるため、運行内容や運行体制等について相談しましょう。 ・運営への協力や利用PRの協力、協賛金等の支援をお願いしてみることも有効です。 ・また、施設内の乗降場所設置の協力も依頼する必要があります。	・自治会等の地域団体、住民・福祉・介護関係者（社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生委員、生活支援コーディネーター等） ・目的施設（病院、商業施設等） ・その他の団体・施設

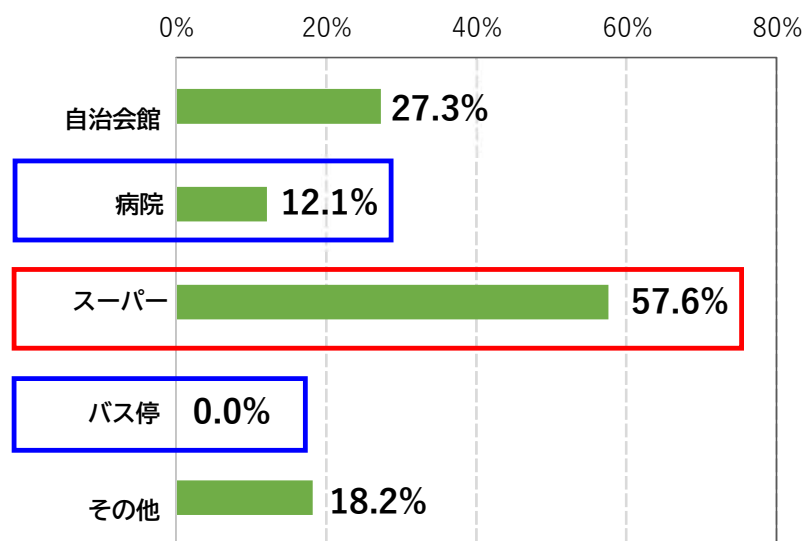
②支援する移動（具体的な目的地）の設定

地域関係者との意見交換を踏まえ、グリスロで支援する移動（具体的な目的地）を設定しましょう。支援する移動の例として、買い物、通院、自治会等のイベントなどがあります。

買い物のような比較的自由で時間の決まっていない行動を目的とした移動を対象とすると、多くの方に利用いただけたと考えられます。

○利用者アンケートの結果（若葉台地区）

問. グリスロを利用した移動の目的地（訪問先）はどこですか。（該当するすべてを選択）



若葉台地区でグリスロ利用者を対象としたアンケートでは、買い物施設を目的地とした移動が最も回答が多い結果となっています。病院等時間が決められたものに合わせて運行することは難しく、利用者も待ち時間が長くなり不便とを感じる人が多いようです。

▲ 若葉台の利用者アンケート結果（2023年9月実施）

③アンケート調査を実施する

地域主体で持続的な運行を行うには、地域住民の関心が高いことが重要です。運行区域にお住いの地域住民等を対象にしたアンケート調査を実施して地域の「ニーズ（移動実態等）」の把握を行いましょう。

調査の実施にあたり、調査票や調査項目の作成および集計は市が支援します。

▼アンケート調査に向けた流れ

概要	
1. 設問の検討	普段の移動実態や、移動支援に対するニーズを把握するために、地域住民に答えてもらう質問を検討してください。 ■市は、必要に応じて資料（事例等）を共有します。
2. 実施方法の決定	議論の結果を踏まえ、Web アンケートか紙の調査票とするかを決定しましょう。（併用可） Web アンケートでは、市のシステムを活用して作業を少なくできます。紙の調査票を用いる場合は、地域で配布、回収、集計を実施していただきます。 ■市は、WEB アンケートについて必要に応じて地域説明を行います。
Web アンケートとする場合	
3. Web アンケートの作成	Web アンケートシステムに入力する設問等を市へ提出してください。 ■市は、設問を入力し、回答用 URL（二次元バーコード）を提供します。
4. Web アンケートの依頼配布	Web アンケート（回答用 URL）を地域住民に共有してください。 例：紙に二次元バーコードを印刷し 地域住民に配布、回覧板で回覧する公民館などに掲出
5. 回答の集計・結果の分析	回答の集計結果から、地域の移動実態やニーズを把握します。 ■市は、回答の集計結果を地域へ情報共有をします。
紙の調査票とする場合 ※調査票に係る費用は地域負担となります。	
3. 調査票の作成	紙面に設問を配置し、調査票を作成します。
4. 調査票の印刷・配布	作成した調査票を印刷、地域へ配布します。 例：公民館などに回答場所を設置する、ポスティングする
5. 調査票の回収	調査票を回収します。
6. 回答の集計・結果の分析	回答を集計、結果を分析し、地域の移動実態やニーズを把握します。

次に、アンケート調査の設問設定例を挙げます。

アンケート調査では、1. 地域住民の移動の現状、2. 公共交通の利用状況や 3. グリスロの利用意向等を確認しましょう。また、ボランティアドライバーや運営スタッフが必要になることを踏まえ、4. スタッフとしての参加意向も把握し、地域に潜在する人材を見つけ出すことも検討しましょう。

▼アンケート調査設問例

設問		設問の意図、狙い	調査項目（例）
0. 回答者属性について		・ グリスロの利用が想定される人がどの程度存在するか把握をする ・ 分析のための基礎的な情報を把握する	・ 性別 ・ 年齢 ・ 職業 ・ 居住地域 ・ 運転免許の有無 ・ 日常的に自家用車を運転するか ・ 運転免許返納意向 ・ 移動時の補助の必要性
1. 地域住民の移動の現状	日常の外出について	・ グリスロで解決し得る地域課題があるかを把握する ・ どのような移動でグリスロの需要があるかを把握し、運行内容の検討に活用する	・ 外出の頻度 ・ よく行く施設 ・ 最も多い出発時間、帰宅時間 ・ よく利用する交通手段 ※買い物、通院など目的別に聞くと具体的に検討できます。
	外出回数の減少について		・ 外出回数減少の有無 ・ 回数が減少している外出目的 ・ 具体的な外出場所・施設 ・ 減少理由（自由回答） ・ 外出における問題（自由回答）
2. 公共交通の利用状況		・ グリスロで解決し得る地域課題があるかを把握する	・ 公共交通を利用する際に困っていること ・ 最寄りのバス停・駅までの距離
3. グリスロの利用意向		・ グリスロの利用が想定される人がどの程度存在するか把握をする	・ 利用意向 ・ 利用しやすい運行方法 ・ 運行希望曜日
4. スタッフとしての参加意向		・ スタッフとして参加意向のある人がどの程度いるかを把握する ・ 地域主体のグリスロ導入に対する機運を醸成する	・ ボランティアドライバーとしての参加意向 ・ その他スタッフとしての参加意向

★市の伴走支援

- ・ 地域が実施するアンケート調査を市が支援します。
- ・ 意見交換会に交通事業者が参加する場合など、必要に応じて関係機関との調整を支援します。

4-2 運行内容の検討

グリスロの運行内容の検討に当たっては、

「(1)運行形態」、「(2)運行エリア・ルート」、「(3)ダイヤ」、「(4)乗降場所」
の4つの内容を設定することから始めましょう。

運行内容の検討に当たっては、検討会に参加する中で、必要に応じて市も助言等を行います。

(1) 運行形態

グリスロの運行形態としては、「定時定路線型」と「デマンド型」があります。

「定時定路線型」⇒ 毎回決められたルート・ダイヤを運行する方法

「デマンド型」⇒ 決められた運行エリア内を予約に応じて運行する方法

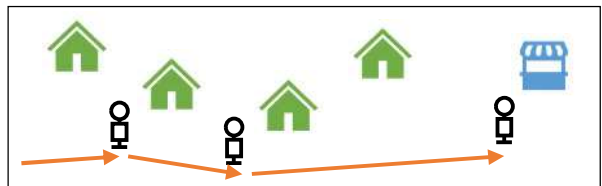
これらには、それぞれメリット、デメリットがあるので、地域の実情や課題・ニーズに合った方法を選びましょう。(両者を組み合わせて運行することも可能です。)

▼運行形態別の特性

運行形態	定時定路線型	デマンド型
概要	・ 毎回決められたルート・ダイヤに応じて運行 (路線バスのような運行)	・ 決められたルート・ダイヤのない運行 (運行エリア内を予約に応じて運行)
メリット	・ 同じルートを運行 (利用方法がわかりやすい) ・ 予約なしで利用可能	・ 運行エリア内全域 (乗降場所設定可) を運行可能 ・ 予約がある場合のみ運行 (空便運行なし)
デメリット	・ ルート以外の利用ができない ・ 利用者の有無に関係なく、全便運行が必要 (空便運行が発生)	・ 利用に予約が必要 ・ 毎回ドライバーが予約に応じた運行ルートを設定することが必要 (土地勘が必要) ・ 到着時間が予約状況で変わる

■定時定路線運行

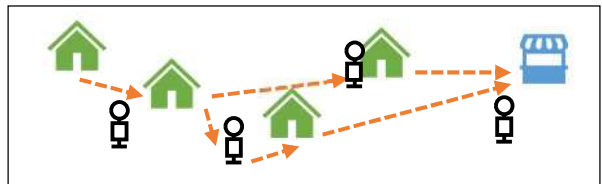
通常の路線バスなどのように、毎回**決められたルートを決められた時間**に走行し、所定のバス停などで乗降を行う。



■デマンド運行

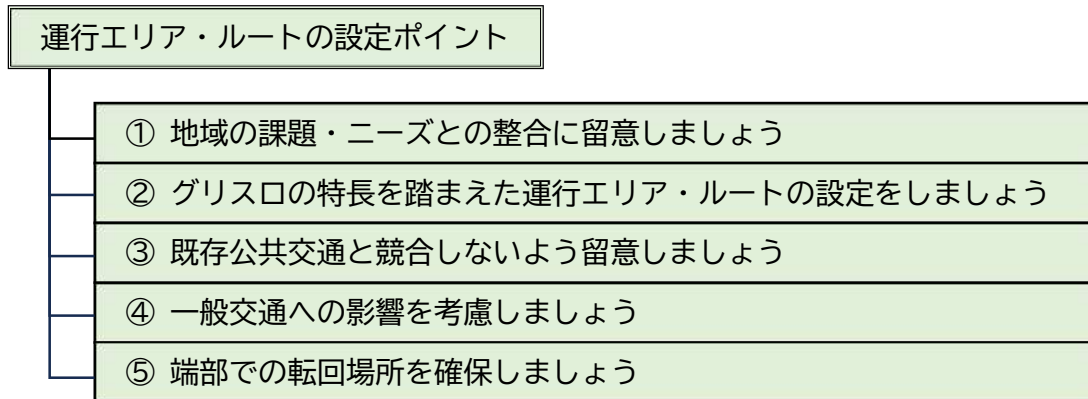
利用者の**予約状況**に応じて、運行する**時刻や経路が変わる**運行方式。

例えば、予約者の自宅を適宜順番に回って、買い物施設まで送る。など



(2) 運行エリア・ルート

運行エリア・ルートの設定は、「(1) 運行形態」に基づき、地域課題やニーズ、地域の移動実態を踏まえて設定しましょう。



<各ポイントの具体的な制約条件・留意点>

① 地域の課題・ニーズとの整合に留意しましょう
□ 4-1で整理した地域の問題点・課題を踏まえ、グリスロ利用者層の普段の移動実態や移動に対するニーズ（目的地、時間帯、頻度等）に基づいて設定しましょう。 □ 把握した利用者のニーズのうち、運営スタッフやボランティアドライバーが対応できる範囲を事前の調整で設定しましょう。
② グリスロの特長を踏まえて設定をしましょう
□ グリスロの「短距離のきめ細かなサービス＝近距離・ちょい乗り移動」が基本となる運行エリア・ルートの検討を行いましょう。グリスロ導入事例では、片道1～3km程度で設定しているものが多く、高低差がある地域などでは1km未満の移動で活用されていることもあります。 □ 1回の運行距離や運行間隔は、一般車両より航続距離が短い（30km～80km程度）という特長を踏まえた設定をしましょう。片道5kmを超えるような長距離移動では、グリスロは時間を要するため、利用者・運転者の負担が大きくなります。 □ グリスロは、「幅員狭小な道路」で運行エリア・ルートの設定が可能であることは特長の一つではあるものの、幅員が極めて狭小な道路をルートに設定する場合は、は歩行者や自転車、他の車両が集中し、混雑が生じないか、交通管理者等との協議・調整をしましょう。（あらかじめ、通行する道路・通行しない道路を設定しておくことも有効です。） □ 道路の段差や勾配が変化する場所などでは、車両の底を擦ることがないか確認しましょう。

③ 既存公共交通と競合しないよう留意しましょう

- 運行エリア・ルートの設定に当たっては、既存路線バス等のサービス状況に十分配慮し、ルートの重複・競合を回避しましょう。
- 既存路線バス等と接続するように調整し、地域における移動サービスとして利便性・効率性を向上させるような運行内容も検討しましょう。
- 既存路線バス事業者等とも相談し、既存公共交通との協調・補完関係がうまく構築できているか確認しましょう。

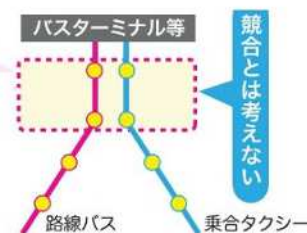


既存の路線バスとの競合について

「既存の路線バスの利用者を奪う状況」を「競合」とする。

★ 運行ルートが重なっていても「競合」とは考えないケース

- 運行時間帯が異なる場合
- 重なっている区間がバスターミナルなど主要目的地周辺の一部区間の場合
(※アクセス道路が限られているため運行ルートは重なりやすいが、短距離区間のみを利用する人は少ないので、競合とは考えない)
- 他に経路選択の余地がなく、やむを得ない場合



※出典：「乗合タクシー導入の手引き」

④ 一般交通への影響を考慮しましょう

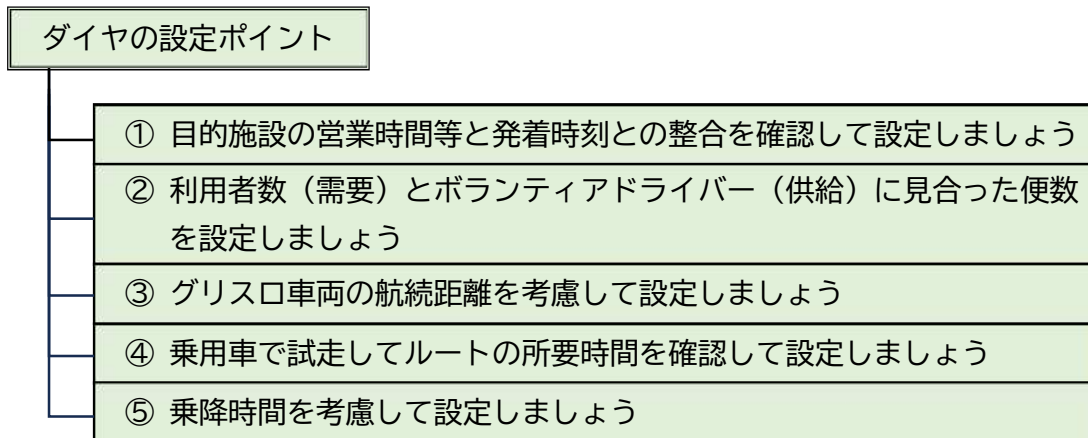
- 幹線道路※の走行は避けましょう。
※多車線道路、交通量が多い道路、通行する車両の速度が速い（例えば、一般国道や主要地方道が該当します。）
- グリス口は、交通量が多く走行速度の速い道路等での導入は不向きなため、他の一般交通への影響を考慮しましょう。
- 一般車の走行速度の速い道路では、一般車がグリス口の横を高速で追い越す際に、利用者・運転者が危険を感じることがあるので、他の車両との速度差が大きい道路での走行は、できるだけ避けて設定しましょう。
- ルート設定上、他の車両との速度差が大きい道路をどうしても走行しなければならない場合は、可能な限り走行距離を短くし、警察・道路管理者等との事前の協議・調整を行うなどの工夫をしましょう。
- 交通事故防止のため、交通量が多く走行速度の速い道路での右折を避けて設定しましょう。

⑤ 端部での車両の転回場所を確保しましょう

- 安全確保のため、利用者が乗車した状態でのバック走行は避けましょう。そのため、運行ルートの端部等では車両の転回場所を確保する必要があり、必要に応じて公共・民間施設の敷地の使用許可をとるなど工夫しましょう。

(3) ダイヤ

ダイヤの設定も、地域の課題やニーズに基づき、地域の移動実態を踏まえて設定しましょう。



<各ポイントの具体的な制約条件・留意点>

① 目的施設の営業時間等と発着時刻との整合を確認して設定しましょう
☐ 商店・病院・駅・バス停などの目的施設への到達時刻に間に合うかどうか、目的施設での滞在時間とうまく整合したダイヤになっているか等のチェックを行いましょう。

② 利用者数（需要）とボランティアドライバー（供給）に見合った便数を設定しましょう
☐ たくさんの便を走らせれば、その分利便性は高まりますが、それに見合った利用が無ければボランティアドライバーの運行の負担が増えてしまいます。逆に便数が少なすぎると、利用者サービスが低下して不便になってしまいます。
☐ また、導入する車両の台数や運転者の人数によって、運行便数も変わってきます。安全・安心な移動サービスの提供が可能な範囲の無理のない運行便数やダイヤ設定を行いましょう。

③ グリス口車両の航続距離を考慮して設定しましょう
☐ グリス口は電動車のため、一般車両より航続距離が短い（30km～80km 程度）という特性がある点を踏まえた設定をしましょう。
☐ 特に高頻度で運行させる場合は、満充電での航続距離に留意し、必要に応じて日中の充電も考慮しつつ、ダイヤを設定することが必要となります。なお、乗車人数や坂道の有無により航続距離が変動する点にも留意しましょう。

④ 乗用車で試走してルートของ所要時間を確認して設定しましょう

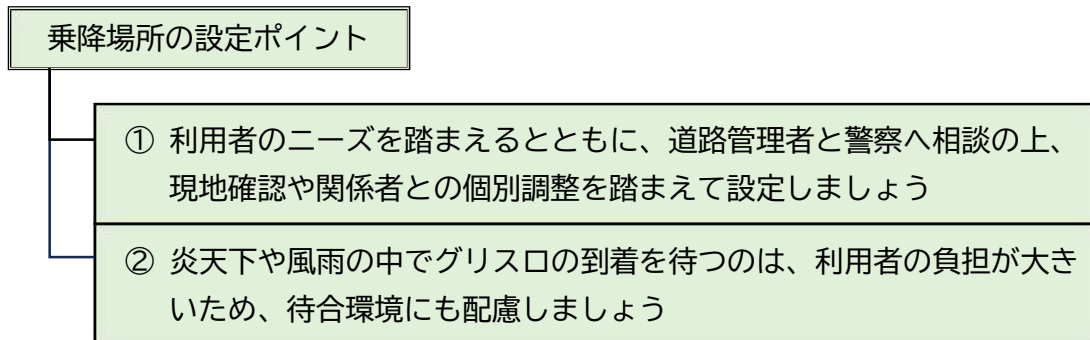
☐ 事前に乗用車等を使って、途中の乗降を考慮しながら 19km/h 以下の速度で、実際にルートを走行して所要時間を計測しましょう。

⑤ 乗降時間を考慮して設定しましょう

☐ 一般的なバスと同様に、利用者の乗降時間も考慮の上、ダイヤを設定しましょう。利用者・運転者双方が焦らず余裕をもって乗降できるようなダイヤ設定に留意しましょう。

(4) 乗降場所

乗降場所の設定は、「(2) 運行エリア・運行ルート」と連動して検討しましょう。



<各ポイントの具体的な制約条件・留意点>

- ① 利用者のニーズを踏まえるとともに、道路管理者と警察へ相談の上、現地確認や関係者との個別調整を踏まえて設定しましょう

□乗降場所設定に関する決まりごとは、法令・基準に基づいています。また、詳細な基準や許可要件については、条例や通達に基づく運用などにより、地方公共団体ごとに異なる場合も多くありますので、各許認可窓口となる行政機関にお問い合わせください。

□道路上に停留所を設置する場合は、

- ・警察への道路使用許可
- ・道路管理者（相模原市ほか）への道路占用許可の提出を行いましょう。

□道路以外の民地へ停留所を設置する場合は、その敷地の管理者等への相談および承諾をもらいましょう。

□道路運送法(第44条)に駐停車禁止箇所が決められていますので留意しましょう。

【駐停車禁止箇所】

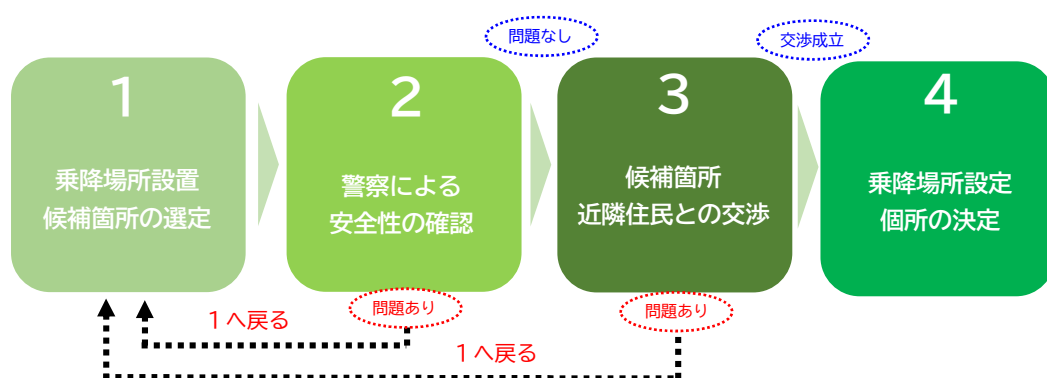
- ×交差点、横断歩道、自転車横断帯、踏切、坂の頂上付近、勾配の急な坂、トンネル内
- ×交差点・道路の曲がり角から5m以内
- ×横断歩道・自転車横断帯から5m以内
- ×安全地帯が設けられている道路について、安全地帯から10m以内
- ×バス停留所（バス停の標示柱・標示板）から10m以内
- ×踏切から10m以内

② 炎天下や風雨の中でグリス口の到着を待つのは、利用者の負担が大きいため、待合環境にも配慮しましょう

□公的施設や民間施設の一部を活用させてもらう等の工夫が必要になります。利用者の立場に立った待合環境の整備も考慮しましょう。

□ベンチ等を新しく設置する場合は、停留所と同様に、警察や道路管理者の許可を受けましょう。

○乗降場所設定の検討フロー



★市の伴走支援

- ・ 検討会に参加し、運行内容の検討に対する助言を行います。
- ・ 警察や道路管理者等、関係機関との調整が必要な場合、市が支援します。

4-3 運営体制の構築

運営には、グリスロ導入を希望する地域住民・関係者の積極的・主体的な関与、並びに運営スタッフ（ボランティア）として参画いただくことが望ましいです。なお、検討体制のメンバーを運営体制のメンバーとして移行する方法や検討体制のメンバーに必要な人員を補充して運営体制を構築する方法もあります。

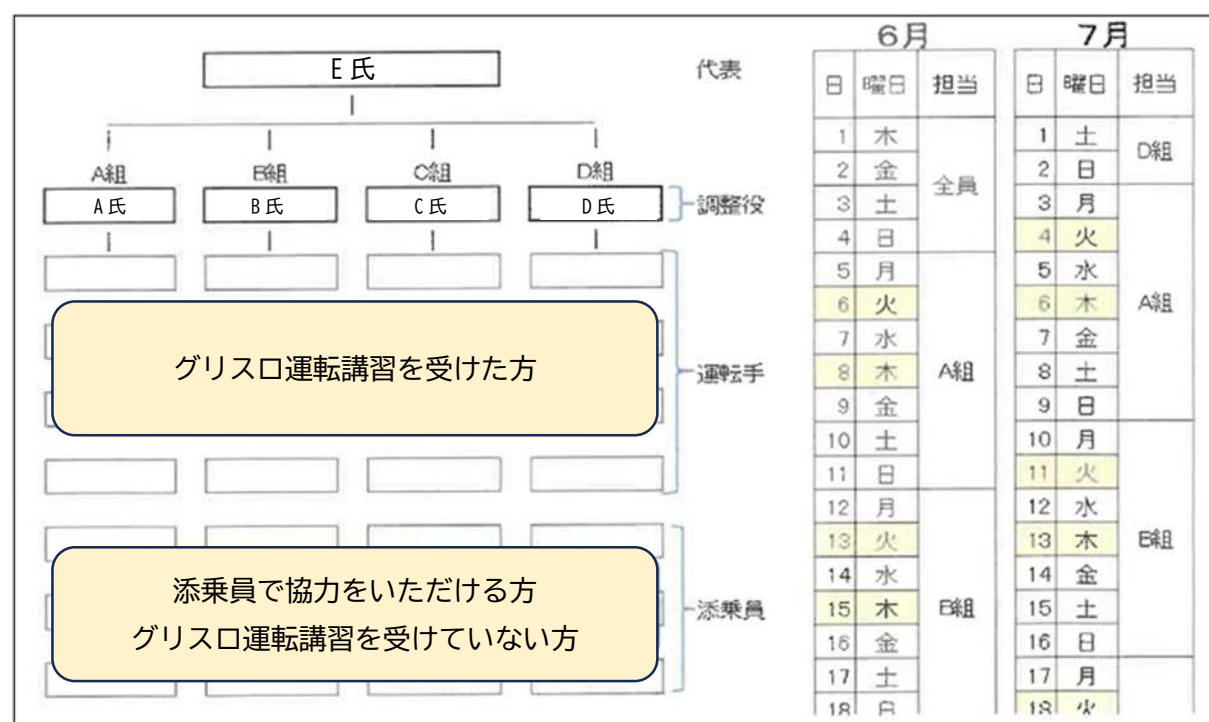
(1) 運行に必要な人材の整理

4-2 で検討した運行内容をもとに運営スタッフやボランティアドライバー等の運営体制に必要な人材を整理します。

■運営体制の例（週4日程度運行の場合）

役割	概要	推奨人数	参考（若葉台）
代表	全体統括	1人	1人
調整役	予約の受付、鍵や日報の引き継ぎ、利用者への運休連絡、運転手の当日欠員補充、運行中や予約受付時の問い合わせ対応	2人以上	4人
運転手	ボランティアドライバー、車両点検	10人程度	40人
添乗員	日報の記入、運行ルートのご案内、利用者の確認、調整役との連絡	10人程度	

※若葉台地区を参考に作成



▲若葉台における運営体制図

【参考】若葉台における運営スタッフの業務内容を紹介します。持続的な取組とするには、個人の負担が重くならないようになるべく多くの方と協力しながら行うことが重要です。

▼（若葉台地区の例）代表・調整役の主な業務内容

役割	業務内容	頻度
代表	定例会の開催	毎週
	視察対応	随時
	事故発生時の対応 等	
調整役	定例会の参加	毎週
・会計担当	補助金の申請	主に年度当初と年度末に集中
	領収書など経費書類の整理	案件ごとに随時
・広報担当	運行予定等の広報資料の作成	月に1回
	掲示板への張出しや回覧板に差込み	
・シフト担当	ボランティアドライバー・添乗員の予定を確認、シフトを決定して通知	月に1回
	利用者登録の実施	随時
	予約電話受付	随時
	アンケートの配布・回収	随時

▼（若葉台地区の例）ボランティアドライバー・添乗員のタイムスケジュール例

～午前便～

- 9：45 自治会館に運行の15分前に集合。車両の状態や予約状況を確認。
- 10：00 運行開始。団地内で利用者を乗せながらスーパーに向かう。
- 10：30 スーパーに到着。50分程度を目安に一緒に買い物をするなど出発まで待機。
- 11：20 スーパーを出発。
- 11：45 利用者を自宅まで送迎し、最終的に自治会館へ到着。
- 12：00 片づけや日報の記入を終了し解散。

～午後便～

- 13：45～16：00 午前便と同様に運行。
- ※ 午前と午後で違うスタッフが対応する場合もある。

■実際の人材確保例

- ・住民アンケートを活用し、住民主体で地域の課題を解決する取組であることを周知する。
- ・地域で高齢者支援の活動をする団体等に協力を依頼する。
- ・ボランティアドライバーの活動内容や頻度について情報共有する。

(1) ボランティアドライバーの確保

①必要な運転免許

10人乗り以下のグリスロ車両は、第一種普通自動車免許を持っていれば運転ができます。

②運転者講習の受講

基本的には、グリスロ車両は一般車両と同様に、車両区分に応じた運転免許があれば運転できますが、走行速度が異なる一般車両や自転車、歩行者等と共存して、安全に道路を運行するためには知識や技術等が必要です。そのため、ボランティアドライバーとして運転する前には必ず市が実施する講習を受講していただきます。

③地域人材の確保・活用

グリスロは低速であり、かつ車両もシンプルであるため、高齢者を含めた様々な方々にとって運転が容易です。そのため、地域人材を積極的に活用することが可能です。

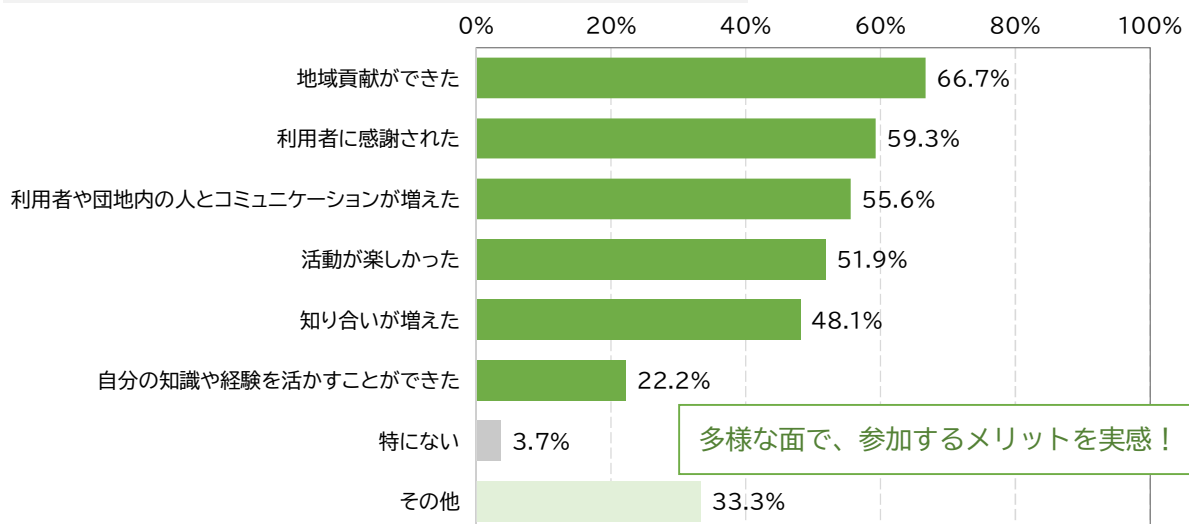
ボランティアドライバーとして運営に協力する形で地域に貢献することが、地域との絆や自身の生きがいの実感につながる可能性もあります。

高齢者の支援を行うボランティア活動に参加している人や団体は、活動目的がグリスロと同様の場合が多く積極的にアプローチすることで、協力を得やすいと期待されます。なお、活動に関するボランティア保険については、地域の判断により、ご加入ください。

スタッフを体験した方の感想（令和5年度実証運行）

○スタッフアンケートの結果（若葉台地区）

問. 活動して良かったことはありますか？（該当するすべてを選択）



★市の伴走支援

・運転者講習は、市が実施します。講習に必要な車両も、市が手配します。

4-4 必要な設備の確保

グリスロを運営するために最低限必要となる設備としては、次のものがあります。

(1) 車両保管場所

グリスロ車両の保管場所は地域でご用意いただきます。保管場所は、車両を傷めないために雨や雪を凌ぐ屋根のある施設が望ましく、防犯への配慮も重要となります。

一般車両よりも車高が高いため、出入口や屋根の高さに留意が必要です。

また、車止めの設置は、発進時及び駐車時の事故防止に効果的です。



<若葉台地区>



<新磯地区>

▲保管場所

(2) 充電設備

車両保管場所には充電設備も必要であり、車両が必要とする電源を確認の上、場合によっては新たにコンセントを設置する等の対応を地域に行っていただく必要があります。また、砂塵・降雨の影響を回避することも認識しておくことが重要です。

なお、車両保管場所（充電設備）は、効率的な運行（回送を削減）や日中の充電対応に備え、運行ルート上や近接した場所が望ましいと言えます。

★市の伴走支援

- ・ 保管場所や充電設備について、必要に応じて市が助言します。
- ・ 後述する、市の「地域おでかけサポート推進事業」を活用することで、駐車場代金や充電にかかる電気料金について補助を受けることができます。

4-5 運営費の確保

(1) 想定される経費等

安全・円滑な運行や利用者の利便性向上のために想定される必要経費は次のとおりです。そのほか、地域の実態に応じて必要な経費を検討してください。

経費項目	備考
燃料代	グリス口の充電にかかる電気料金
駐車場代	保管場所に駐車場を借用する場合の料金
広報費	チラシ印刷費用等
通信費	利用・調整にかかる通信料
その他備品購入費	ビブス（袖なしの薄いウェア、ゼッケンとも）、のぼり旗等

(2) 相模原市地域おでかけサポート推進事業

市では、地域主体の活動を支援するため、「相模原市地域おでかけサポート推進事業」を行っています。グリス口運行の活動経費に対する補助金の交付も行っているため、活用を検討しましょう。

<事業内容>

①活動経費の補助

対象団体	・市内に活動の拠点を有するボランティア団体等で、構成員が 5 人以上の団体であること ・代表者及び構成員である運転者のすべてが、第一種運転免許を取得して国土交通大臣認定福祉有償運送・セダン等運転者研修又は市が実施する外出支援ボランティアの担い手養成のための講座を受講している者、若しくは第二種運転免許を取得している者又は業として移動輸送サービスを行っている者であることなど
対象事業	・ボランティアによる外出困難な高齢者・障害のある方などの移動を支援する事業で、道路運送法の許可又は登録を要しない形態によるもの
対象経費	・燃料代、道路通行料、車検等の法定の整備費用、任意の自動車保険料、車両の購入費・リース料、駐車場代、利用調整にかかる通信料及び人件費、その他市長が認める経費 ※他の事業を行っている場合は、本事業に該当する部分のみが対象です
年間上限額	・年間延べ乗車人数 100 人まで：30 万円 ・年間延べ乗車人数 101～300 人まで：40 万円 ・年間延べ乗車人数 301 人以上：50 万円 ※乗車人数の計算は、利用者 1 人について片道 1 人分の計算です ※往復の利用であれば 2 人分の計算になります

（令和 6 年度の内容）

★市の伴走支援

- ・「地域おでかけサポート推進事業」の申請について、必要な手続きの補助を実施します。

4-6 実施計画の策定

(1) 運行内容の確定

4-2 で検討した運行内容について、地域関係者等と最終調整を行う。

(2) 実施計画の策定

グリスロの実証運行に向けて、関係者と運行内容を共有し合意を図るために、実施計画の作成が必要です。策定する実施計画は、次に示す項目を整理しましょう。

また、実施計画を策定したら「グリーンスローモビリティ実施計画」の提出を行ってください。

▼実施計画の例

	計画項目		記載内容
必須項目	1. 実施主体		・実証運行実施主体（団体名称）を記載
	2. 実証運行エリア		・実証運行エリアを記載
	3. 運行計画		・運行計画内容を記載 （※複数ルートがある場合はルート別） ・運賃 ・利用方法 ・使用車両・保管場所 ・運行期間 ・運行のルート・ダイヤ ・乗降場所 ・運行のルート図（乗降場所、ダイヤも図示）
	4. 運行体制計画		・運行体制を記載（代表、調整役、運転手、添乗員等） ※体制図、シフト表があれば添付
任意項目	5. 広報計画		・実証運行の周知、利用喚起のために実施する広報内容（チラシなど）を記載
	6. 資材等計画	資材準備	・設置物（乗降ポイント、ベンチ等） ・設置物の内容や設置箇所 ・掲示物（チラシ等） ・内容や掲出箇所 ・車両掲示物
	7. 効果把握調査計画	調査内容	・実証運行による効果や影響、導入課題を把握するために実施する調査（方法・内容）を記載
		運行日誌	・実証運行時に使用する運行日誌を添付（予約・運行記録）
		アンケート調査票	・実証運行時に使用するアンケート調査票（利用者向け、スタッフ向け等）を添付
	6. 準備・運営計画	実証運行の準備	・各関係機関等との調整状況を記載
		実証運行中の対応	・運行準備マニュアルを作成

4-7 広報の実施

グリスロ利用者を増や運行を維持・定着させるためには、利用者のニーズに即した運行サービスとともに、広報・PRや利用のきっかけづくりが重要です。

(1) ボランティアドライバー募集

グリスロは、高齢者を含めた様々な方々にとって運転しやすい車両のため、地域人材を積極的に活用することが可能です。

ボランティアドライバー募集の広報活動を積極的に行って、「地域に貢献したい」、「地域との絆や自身の生きがいを実感したい」と考えている人材を発掘しましょう。

また、地域課題やニーズ把握のために実施するアンケート調査において、ボランティアドライバーが必要であることもPRし、地域に潜在する人材への周知を図りましょう。

(2) 利用者募集

グリスロの運行を維持・定着させるためには、利用者を増やすことが最も重要です。利用者募集のための広報・PR活動を行いましょう。

市広報誌やテレビ・新聞等のマスメディアを活用したり、出発式や試乗会等のイベントを検討・実施したりする等、地域の方々の目に触れる機会、乗る機会を着実に設けていくことが重要です。

また、車両に愛称をつけたり、ロゴマークを設定したりするなどして、愛着を持ってもらう仕組み作りも有効です。

その他、地域の商店等と連携したお得感のある付加サービスの提供など、利用を促進するための方策については積極的に検討してみましょう。

地域住民の口コミや、自治会の回覧板等を活用して乗った方の感想を紹介する、利用することのメリットをPRするなど、地域全体が積極的に利用したくなる雰囲気醸成することも重要です。



▲出発式（若葉台地区）



▲出発式（新磯地区）

★市の伴走支援

- ・市の広報媒体の活用などにより、支援します。
- ・出発式等のイベントを実施する際は、メディアへの発信や、ゆるキャラの派遣などを行います。

(3) チラシの作成と活用

広報・PRの手段として取り組みやすいのは、チラシです。地域住民が作成し、地域の回覧に回したり、公園や公民館などの施設で掲出したり、イベントで配布したりなど、地域住民主体で幅広く情報を拡散することが可能です。次のようなタイミングでチラシを作り、1ヶ月前を目安に周知しましょう。

▼チラシの活用

活用のタイミング		チラシに記載する主な内容
試乗会/出発式	試乗会/出発式の日時や場所を案内。 地域住民が試乗会や出発式に参加することで、地域の機運・関心が高まる。	・ グリス口の特徴 ・ 試乗会/出発式の日時、場所 ・ 参加方法
運行開始	運行開始前から、運行内容を告知。 運行開始と同時に地域住民がサービスを利用できるよう準備する。 また、ボランティアドライバーの必要性を周知し、協力者を増やす。	・ 運行時期 ・ 運行内容（ダイヤ、ルート） ・ 利用方法、予約方法
運行内容の変更	運行内容の変更について告知。 利用者が混乱することを防ぐ。	・ 運行内容が変更される時期 ・ 運行内容の変更点



▲ チラシ掲出イメージ(公園掲示板)

▼ チラシ掲出イメージ(ゴミステーション)



■試乗会/出発式

全戸配布・掲示

地域内循環電気乗合自動車 グリーンスローモビリティ **無料**

6月8日運行開始

6月8日 9時～自治会館でオープンセレモニー

- ・運行日：火曜日、木曜日 午前 9時～10時に1便
午後14時～15時に1便
- ・コース：若葉台内各丁目からバス停まで送迎運行
運行ダイヤの詳細は別途連絡
- ・利用状況を見て7月にコース、ダイヤを見直しします
- ・要望により原宿のスーパーアルプスへの運行も検討
- ・各サークル用の臨時便の運行も予定
- ・すべて若葉台、近隣住民ボランティアによる運行です

事前に利用者登録が 必要です

利用希望者は下記へ連絡してください

申込書、案内書をお持ちします。

グリスロ若葉台の会

【出発式】（若葉台）

試乗会/出発式の日時や場所を案内。
地域住民が試乗会や出発式に参加すること
で、地域の機運・関心が高まる。

【運行開始】（若葉台）

運行開始前から、運行内容を告知。
運行開始と同時に地域住民がサービス
を利用できるよう準備する。
また、ボランティアドライバーの必要性
を周知し、協力者を増やす。

■運行開始

「グリーンスローモビリティ」実証運行のご案内

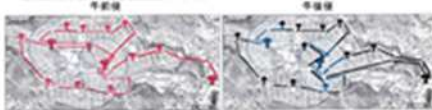
ボランティア団体「グリスロ若葉台の会」により実証運行が7月に行われます。

どんな車なの？



どこを通るの？

若葉台の中心部を回り、「若葉台住宅」と「若葉台中央」のバス停まで送迎します。
広葉樹の影を浴びながら運行します。



運行頻度は？

午前9時～午後1時 週2～3回 火曜、木曜、（可能な場合土曜も）
他に若葉台自治会館でのイベント時
運行回数は随時変更、コースの変更、増減があります。

どんなふう利用できるの？

原則、利用希望者として運行します。
利用される場合は、前日までに予約して頂きます。
運賃は頂けません。

ボランティア活動者 募集

運転手と乗客を募集しています。
ご関心のある方は下の問い合わせ先へお電話を

「外出支援ボランティア担い手養成講座」案内

この活動に参加される方は、原則、この講座を受けて頂きます。
今年度は3回、就座される予定です。
第1回 6月20日（土）10:00～11:30 柳屋市中央区 あじさい会館
第2回は別途連絡

お問い合わせは・・・

ボランティア団体「グリスロ若葉台の会」

電話（固定）

（通って専用電話を指定）

掲示

地域内循環電気乗合自動車 グリーンスローモビリティ **無料**

スーパーアルプス城山店便

スギ薬局、ダイソー、マクドナルド、クリーニング、衣料、パン店

毎週土曜日運行開始！

7月8日、15日、22日

【午前便】

- 9:30 自治会館発（予約者宅付近まで迎車）
アルプス城山店（買い物時間 50分前後）
- 10:50 アルプス発
- 11時過ぎ 若葉台着 予約者自宅付近まで送ります

【午後便】

- 13:30 自治会館発
- アルプス城山店（買い物時間 50分前後）
- 14:50 アルプス発
- 15時過ぎ 若葉台着 予約者自宅付近まで送ります

- ・予約のない便は運行しません
- ・火、木の定期便、サークル臨時便は従来通り運行

まずは利用者登録をしてください

登録後、利用希望者は前日までに上記で予約
定員 各便先着5名

グリスロ若葉台の会

【運行開始】（新機）

「グリーンスローモビリティ」実証運行のご案内

新戸荒井耕地区 地区を対象に実証運行を行います。

グリーンスローモビリティの概要

■グリーンスローモビリティ（グリスロ）とは…
「グリーンスローモビリティ」は、時速20km未満で公道を走行することができる電動車を適用した小さな移動サービス

■グリスロの特徴

- ① Green …電動車を活用した稼働しやすしい移動サービス
- ② Slow …安全を重んじながら、生活道路をゆっくり走行
- ③ その他 …同じ近隣の車間と比べて小型、稼働場所がある、乗降しやすい など

実証運行の概要

■運行期間： 令和5年12月9日（土）～令和6年1月27日（土）
※年末年始（12月30日、1月6日）は運行しません。

■運行日： 毎週 土曜日（ただし、雨天、荒天時は運行しません。）

■運行方法： 事前予約型（タクシーと同じような運行です。）
※ご利用の場合は、前日（金曜日）に以下の「お問合せ」先までご連絡をお願いします。

■利用料金： 無料

■運行頻度： 午後1便 14時～（帰宅便15時30分頃～）
ツルハドラッグ行き

■運行の目的

- ・買い物支援を目的で、ツルハドラッグまで運行
- ・ツルハドラッグから徒歩により、たからやアレーでの買い物も可能
- ・到着後、買い物時間を1時間を超えた後、帰宅便の便を運行

お問合せ先（予約受付）

■グリーンスローモビリティの実証運行のドライバー TEL: [REDACTED]

※裏面 ⇒ 運行範囲、グリスロ試走会【11月22日（水）】のご案内

運行範囲（新戸荒井耕地区～ツルハドラッグ）

グリスロ試走会のご案内

実証運行の前に、試験的に新戸荒井耕地区の地区内をグリスロが運行します。

■試走会： 令和5年11月22日（水）

■時間： 午後2時～3時（目安）

■内容： 新戸荒井耕地区の地区内を運行

この機会に、グリスロの車両をご覧ください。

試走運行の範囲

■運行内容の変更

【運行内容の変更】（若葉台）
運行内容の変更について告知。
利用者が混乱することを防ぐ。

登録者配布、掲示、閲覧

8/15～9/30 若葉台自治会

グリスロ運行再開

8月22日（火）よりスーパーアルプス城山店便を火曜、土曜に運行（週4便）

月	日	曜日	午前	午後
8月	22日	火	10時	2時
	26日	土	運休	運休
	29日	火	10時	2時
9月	2日	土	10時	2時
	5日	火	10時	2時
	9日	土	10時	2時
	12日	火	10時	2時
	16日	土	10時	2時
	19日	火	10時	2時
	23日	土	10時	2時
	26日	火	10時	2時
	30日	土	10時	2時

要予約

先着順 5名

予約電話

運転手手配の為に必ず前日までに要を予約してください

予約が無い場合は運休します

10月以降の運行ダイヤは別途通知します

■若葉台各所の乗車地点（裏面地図参照）からスーパーアルプス城山店に直行

■現地での買い物時間は50分前後で、帰りは自宅付近まで送ります

■従来の若葉台内循環便、広瀬病院行便は中止します

■サークル送迎専用便、朝市便、イベント臨時便は可能な限り運行します

■天候等で急に運休になる場合は予約者へ連絡します

■利用希望の方で、利用登録が未だお済みでない方も上記の番号へご連絡ください

グリスロ若葉台の会

グリスロ乗車地点

- ① 自治会館
- ② 新若葉台バス停（橋本駅行側）
- ③ 1丁目ゴミ箱No1付近
- ④ 3丁目ジグザグ入口付近
- ⑤ カタクリ公園
- ⑥ 5丁目ジグザグ入口付近
- ⑦ 5丁目入口付近
- ⑧ 若葉台住宅バス停付近
- ⑨ 小栗公園
- ⑩ 7丁目ゴミ箱No37付近
- ⑪ 7丁目ゴミ箱No41付近

各乗車地点にはのぼり旗かバス乗車地点の表示をします

予約時に乗車予定の番号をお伝えください

出発時間の10時、2時は①の自治会館出発時刻です。各乗車場までは5分から10分程度かかります

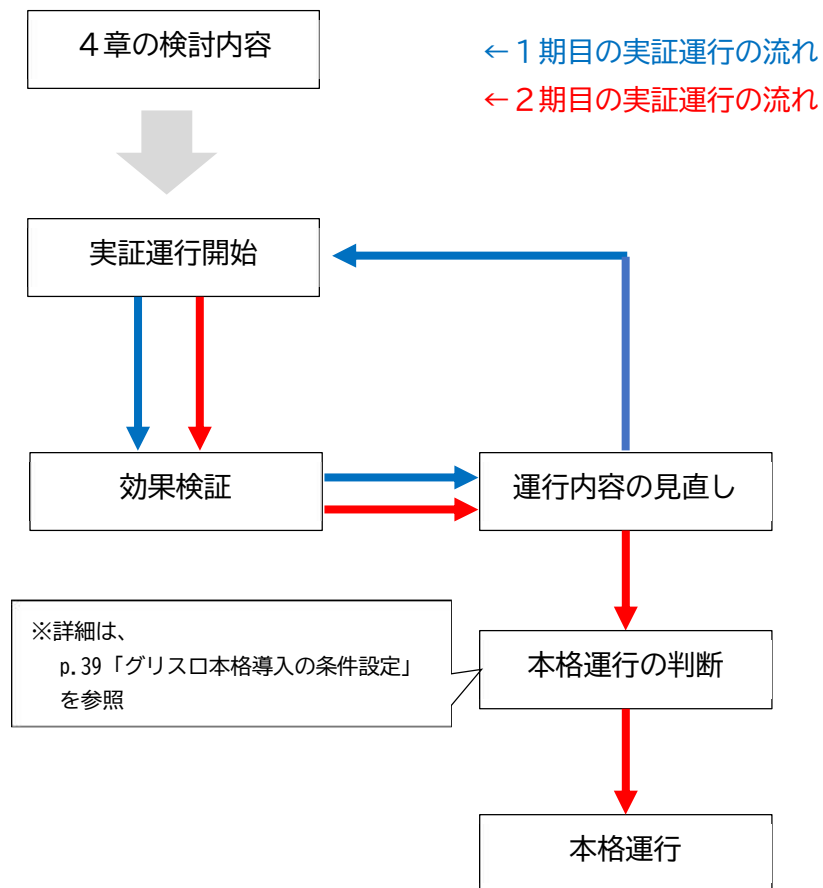
予約者によって最短コースを通りますので、毎回到着時間が多少前後します

乗車キャンセル時は必ず連絡を入れてください

5. 実証運行

5-1 実証運行のフロー

市では、本格運行に向けて、2 期の実証運行を通して、必要性及び持続性の検証をすることを前提としています。



▲実証運行の流れ

本格導入の条件	
条件①	①利用者数 1 便当たり2人以上
	②運行頻度 1 週当たり8便以上 ※は往路、復路をそれぞれ1 便として計上
または	
条件②	利用者数×運行頻度 週当たり利用者数16人以上

5-2 効果検証

グリスロの実証運行実施に当たっては、グリスロ運行による効果を検証することが必要となるため、それを前提として、運行の状況（運行日時、利用者の人数や乗降場所等）の記録や、利用者や関係者の意見収集をしましょう。

次に示す効果検証項目を参照して、地域に合った効果検証を計画し、実施しましょう。

なお、効果検証の結果につきましては、『実績報告書』を毎月末作成し、速やかに市へ報告してください。

▼効果検証項目（案）

検証項目	指標（取得方法）	分析の考え方
利用されているか	・総利用者数 ・1便当たりの利用者数 ・目的地別利用者数 ・年齢別利用者数 （⇒運行記録）	・利用が少なくないか。 ・想定したターゲットにサービスが届いているか。
生活の向上に寄与しているか	・生活への好影響 例）外出頻度、行動範囲の拡大、生活が楽しくなる 等 （⇒利用者アンケート）	・グリスロの運行により、利用者の生活が向上しているか。
安全に運行できているか	・事故やヒヤリハットの有無（⇒運行記録） ・利用者が危険だと感じないか（⇒利用者アンケート）	・事故、ヒヤリハット、利用者が危険だと感じることはないか。
運営に持続性はあるか	・運転手や運営スタッフの継続意向（⇒スタッフアンケート）	・スタッフを継続しても良いと思っているか。
既存公共交通との競合が起きていないか	・公共交通利用頻度の変化（⇒利用者アンケート）	・グリスロの運行開始以来、公共交通の利用頻度や利用者が大幅に減少していないか。

※青字の指標は取得・分析が少し高度ですが、よりの確な評価につながります。

★市の伴走支援

- ・アンケート項目やアンケート結果の分析内容に対し、市が助言します。

5-3 運行内容の見直し

実証運行の効果検証結果を踏まえ、利用者を確保し、利便性の高い持続可能な運行ができるようなサービス提供に向け、必要に応じて運行内容の見直しを行いましょう。

▼グリスロ運行サービスの見直し内容（案）

効果検証結果	見直し内容
利用者数が少ない、生活の向上に寄与していない	・ 目的地の変更 （要望の多い目的地の追加、少ない目的地の除外） ・ 運行ルートの変更 （利用者の多い目的地への効率的な運行） ・ 運行便数の変更 （利用の多い時間帯の増便、少ない時間帯の減便） ・ 運行ダイヤの変更 （目的地施設の営業時間等との連動調整） ・ 広報活動の強化
ボランティアドライバー・運営スタッフが不足、継続意向が低い	・ 新規募集の強化（地域で活動する組織、団体に向けて PR する、やりがい等を PR） ・ 負担軽減（運行内容を簡略化、別のサポートをしてもらう）
安全性が不安	・ 運転講習の実施 ・ ヒヤリハットの共有
既存公共交通と過剰に競合している	・ グリスロと既存公共交通との役割分担の明確化 ・ グリスロの利用回数に対する上限の設定 ・ 既存公共交通との接続性向上（ダイヤの調整や乗降ポイントをバス停にする。）

★市の伴走支援

- ・ サービスの見直し内容の検討に対し、市が助言します。
- ・ 必要に応じて運転講習を実施します。

5-4 本格導入に向けて

本格導入の判断にあたっては条件を設定し、2期目の実証運行において下記条件の達成状況を確認します。（本格導入後の運行継続の条件も同様とし、毎年度達成状況を確認します。）

条件を満たさない場合は、運行サービスの見直しを行い、本格導入の条件を達成しましょう。

また、本格導入の条件を満たしたら、「グリーンスローモビリティ本格導入申請書」の提出を行ってください。

▼グリスロ本格導入の条件設定

条件①

導入条件	条件設定の意図
①利用者数 1便当たり2人以上	利用者が少ない場合、需要が無い、又は需要と一致していないと判断する。
②運行頻度 週当たり便数8便以上 ※スーパー等の往復利用が基本となる運行では往路、復路をそれぞれ1便として計上	運行頻度が少ない場合、需要が無い、又は需要と一致していない、もしくは運行体制が整っていないと判断する。

条件②

利用者数×運行頻度 週当たり利用者数16人以上	利用者数・運行頻度が少ない場合、需要が無い、又は需要と一致していない、もしくは運行体制が整っていないと判断する。
----------------------------	--

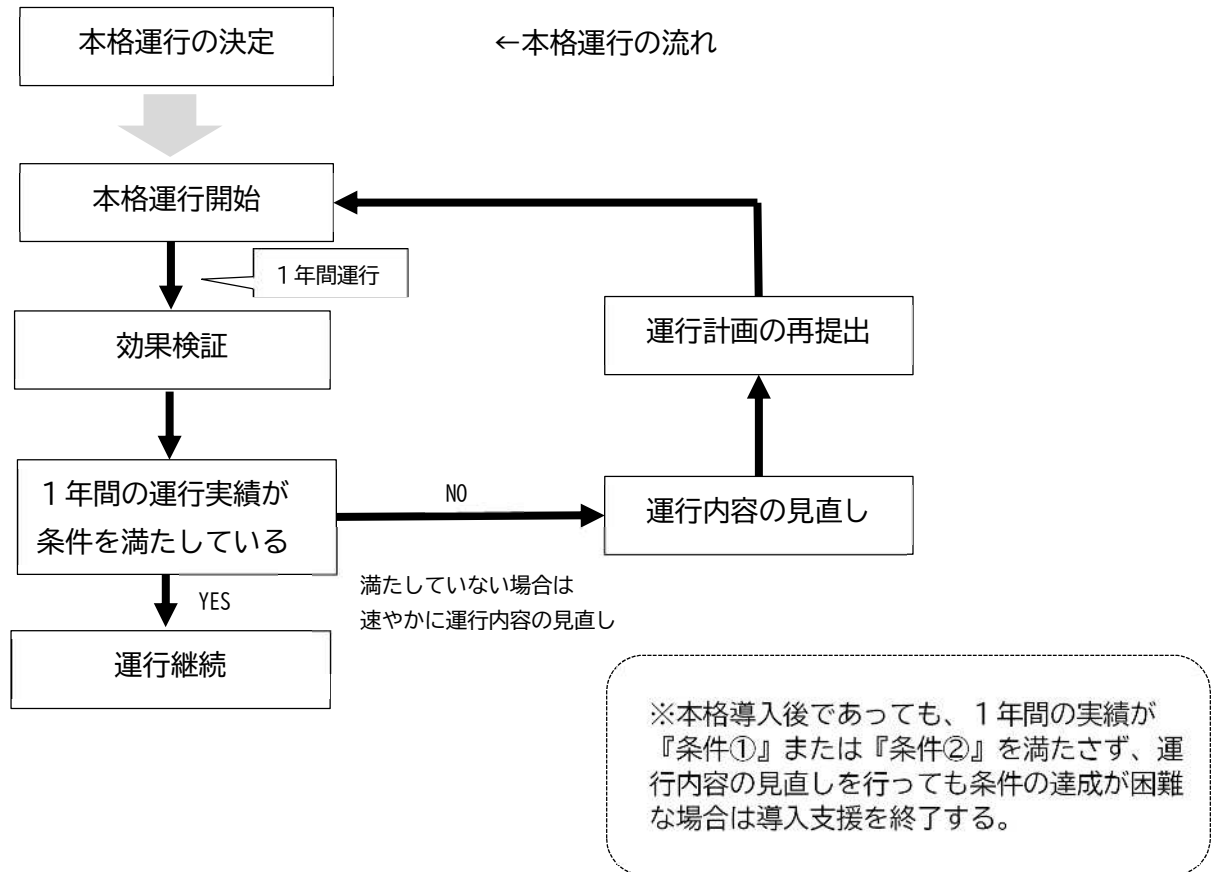
その他、次の点も本格導入の判断の際に参考とします。

- ・継続利用意向が少ない場合、今後のグリスロの需要は低いと判断。
- ・ボランティアドライバーの人数が少ない場合、需要に見合った運行ができない、又は安全な運行ができないと判断。
- ・管理が不十分なことにより、運行面で地域と軋轢が生じている場合、管理体制の見直しが継続の条件。
- ・重大な事故が発生した場合、地域の受容性の低下や運行スタッフの精神的負荷を踏まえ、継続の是非を判断。
- ・既存公共交通への影響が大きい場合は、運行内容の見直しを求める可能性。

6. 本格導入後

6-1 本格運行のフロー

本格運行が決定したら、地域は運行計画に基づき運行を実施してください。グリスロの本格導入後も引き続き市は、運行の全般において適宜助言するなど、伴走支援をします。



本格導入の条件	
条件①	①利用者数 1便当たり2人以上
	②運行頻度 1週当たり8便以上 ※は往路、復路をそれぞれ1便として計上
または	
条件②	利用者数×運行頻度 週当たり利用者数16人以上

6-2 本格運行後の市の支援

本格運行後の主な市の支援は次のとおりです。

（１）車両に関すること

- ① 市と地域による「貸借契約」の締結に基づく車両の貸出
- ② 車検等の法定整備
- ③ 車両の物損、車両に起因する人身事故等への対応（保険の対象範囲内）
- ④ 通常の使用による車両故障および維持管理に必要な消耗品の購入等

【市が契約する保険の内容】

対人賠償：無制限 対物賠償：無制限 人身傷害：無制限
車両保険：保険の対象範囲内

（２）運営に関すること

- ① 運営等の会議出席及び情報提供（必要に応じ）

（３）運行に関すること

- ① 地域から提出される「実績報告書」をもとに運行実績を確認
- ② １年間の運行実績が条件を達成しているか地域へ情報提供
- ③ 地域が行う運行内容見直しの支援
- ④ 国、警察、事業者等との調整（必要に応じ）

（４）利用促進活動への協力

- ① 地域が行う利用促進活動への情報提供

【留意事項】

- ・（１）③④については、地域は事故等のトラブルの発生時には市に対して『事故等報告書』を提出し、市の求めに応じて立会や手続等を行ってください。
- ・貸与した車両が何らかの事情により運行できなくなった場合の代替車両の提供はありません。
- ・運行実績は、毎月末に『実績報告書』をとりまとめ、翌月速やかに電子メールか郵送で提出してください。
- ・利用促進活動等に伴い検討体制や運行内容等に変更が生じた場合は、変更した事項について市へ報告してください。

参考：実証運行した地域

①若葉台地区（緑区）

- ・若葉台地区は、JR 橋本駅から約 5 km に位置する丘陵部を造成した住宅団地。
- ・約 2,100 人、約 900 世帯*が暮らしており、高齢化率が 57%*と高い。

※出典：令和 2 年度国勢調査



▲若葉台地区概況

背景の出典：国土地理院ウェブサイト

「<https://maps.gsi.go.jp/#16/35.596007/139.299688/&base=pale&ls=pale&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>」を加工して作成

■導入の背景

- ・居住者の高齢化率が高く、団地内に高低差があり徒歩移動の負担が大きいことから、移動支援の要望があった。
- ・日常的な買い物施設が、団地からやや離れている（直線 1.5km 程度）ことが課題であった。
- ・団地内は車の通行量も少ないことから、グリス口の運行に適していると判断した。

■グリス口の走らせ方

○スーパーアルプス城山店便

- ・自治会館を出発し、事前予約者の自宅まで迎車、スーパーアルプス城山店まで送迎。
- ・買い物中はグリス口をスーパーで待機させ、買い物が終わったら利用者を自宅まで送迎。

○サークル送迎便

- ・若葉台自治会館で開催しているサークル活動や、地区内でのイベントの送迎。自治会館と利用者の自宅間を基本に運行。



▲若葉台地区で走行する様子

②新磯地区（南区）

- ・地区を JR 相模線が縦断し、地区内に JR 相武台下駅が立地しているが、地区の一部は交通不便地域になっている。
- ・新戸地区は約 4,200 人、約 1,800 世帯※、磯部地区は約 9,000 人、約 3,500 世帯※が暮らしている。

※出典：令和 2 年度国勢調査



▲新磯地区概況

背景の出典：国土地理院ウェブサイト

「<https://maps.gsi.go.jp/#14/35.501767/139.401827/&base=pale&ls=pale&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>」を加工して作成

■導入の背景

- ・地区の一部（勝坂地区）が「相模原市総合都市交通計画」における交通不便地域に位置付けられているなど、地域から移動支援に対する要望があった。
- ・全長 3km 程度の地区に買い物施設が少数しか立地していないこと、河岸段丘により東西で高低差があることから、買い物移動の支援に対するニーズがあった。
- ・地区全体で道が狭く、グリスロの運行による支援が適していると判断した。

■グリスロの走らせ方

○勝坂地区・上磯部地区・新戸地区（全地区共通）

- ・事前予約者の自宅まで迎車、「たからやフレサ」「ツルハドラッグ」の 2 つの店舗まで送迎。
- ・買い物中はグリスロを店舗で待機させ、買い物が終わったら利用者を自宅まで送迎。

○イベント送迎便

- ・新磯地区で開催しているお祭りや、地区内でのイベントの送迎。自宅とイベント会場間を基本に運行。



▲新磯地区で走行する様子